



第 22 回実施要綱・実施細則・レポート作成規程 提示テーマ一覧・応募フォーム（参加学生用）

（2026 年 3 月 25 日版）

1. 実施要綱
2. 実施細則（参加学生用）
3. レポート作成規程
4. 参加企業 提示テーマ一覧
5. 参加学生 応募フォーム

2026 年度 第 22 回神奈川産学チャレンジプログラム 実施要綱

一般社団法人神奈川経済同友会

はじめに

神奈川産学チャレンジプログラムは、一般社団法人神奈川経済同友会（以下「同友会」という）の会員が所属する企業および団体（以下「企業」という）と神奈川県内の大学が中心となって行う、産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究コンペです。

本プログラムは、PBL（Problem Based Learning）の手法を応用し、企業が抱える経営課題をテーマにあげ、それに対して学生チームが自主、能動的に研究して実践的で実効性のある解決策を研究レポートとして提示するもので、実社会で発生している問題に具体的に取り組むことにより、問題解決能力の高い人材の育成につながります。

また、企業と学生とが1つのテーマに沿って交流を持ち、意思疎通を図ることにより、就職等でのお互いのミスマッチをなくし、学生にとっては生きたビジネスの世界を知り得ることとなり、企業にとっては学生のアイデアを事業のヒントとして活かせる好機ともなります。

I. 趣 旨

本プログラムは、企業が日常の経営課題の中から実践的な研究テーマを挙げ、神奈川県内に拠点を置く大学が中心となつて、各テーマにチャレンジする学生を募り、提出された研究成果に対して企業が審査を行い、優秀なレポートについては企業、大学、学生等の関係者による表彰式において、その努力、才能を評するものです。

本プログラムの特徴として、次の点が挙げられます。

1. 企業、大学、学生による産学連携の形で実施され、学生の自主的な参加による学生主体のプログラムです。
2. 多岐にわたるテーマは、社会・人文科学系あるいは技術系を問わず、学生にとり、広く研究が可能であり、企業の担当部署と連携して作業を進めていく過程が、学生個々の能力開発や自己啓発の場として活かされます。
3. 企業にとっては知名度のアップや学生の斬新なアイデアの取込み、優秀な人材の発掘、大学にとっては学内の活性化と企業が目指す方向性の認識等の波及効果が期待できます。

II. 経 緯

同友会の教育文化委員会では、2002 年 5 月、学生の職業や労働に対する意識と企業の求める人材とのギャップやミスマッチの解消のための諸施策を企業、大学へ提言しました。

2003 年 1 月末、県内 5 大学、すなわち横浜国立大学、横浜市立大学、関東学院大学、神奈川大学、東海大学との間で産学連携のあり方を検討するための「神奈川産学懇談会」を発足させ、その連携の一つの試みとして、学生の柔軟な発想・創造性を引き出すことを目的に、2004 年に「第 1 回神奈川産学チャレンジプログラム」をスタートさせました。大学 5 校、企業 21 社、学生 57 チーム・212 名の参加により始まった同プログラムは、その後、順調に発展・拡大。2020 年はコロナ禍により中止いたしましたが、2021 年に再開し、以降毎年開催。第 21 回となった 2025 年は、大学 18 校、企業 36 社、学生 185 チーム 842 名の参加があり、厳正な審査を経て、2025 年 12 月 16 日、パシフィコ横浜で行われた表彰式において最優秀賞 24 チーム、優秀賞 43 チームが表彰されました。

III. 実施概要

1. スケジュール

(1) 参加大学募集ならびに参加企業募集・テーマ募集

→ 2 月 12 日 (木) 募集開始、締切 3 月 9 日 (月)

→参加を検討されている大学・企業に、同友会より、実施要綱、応募書類フォーマット一式をお送りします。特に参加企業は、同時にテーマの提出がありますので、テーマの検討は早めにスタートしてください。

(2) 参加者説明会の開催 → 3 月 19 日 (木)

→同友会が、参加大学および参加企業に対して、本プログラムの説明会を開催します(オンライン)。

(3) 参加大学における学生チームの募集 → 募集開始は説明会以降、締め切りは 5 月 1 日 (金)

→参加大学は、説明会終了後、学生に対して参加の募集を行っていただきます。学生チームの応募は、PC、スマホを通じて学生チームより直接行っていただきます。

(4) 研究テーマの決定 → 5 月下旬に決定

→同友会・参加企業・参加大学による調整を経て、学生チームに研究テーマを割り当て、決まり次第、その結果を参加企業および参加大学に報告します。

(5) 参加企業による学生チームへの説明会 → 研究テーマ決定後から 6 月末までに実施

→参加企業は、テーマに関する説明会を、学生チームに対し速やかに実施してください。

- (6) 学生チームの研究レポート作成 → 作成期間は説明会終了後～9月末
→ 学生チームは、説明会終了後、9月末を目処に、研究レポートの作成を行います。完成した研究レポートは、各大学が定めた提出期限までに所属する大学に提出します。
- (7) 参加大学より同友会に研究レポート提出 → 同友会への提出期日 10月5日(月)
→ 参加大学は、提出された研究レポートをとりまとめて、期日までに同友会へ提出します。
- (8) 参加企業による審査 → 審査期間は10月中旬～、同友会への審査結果提出期限 11月17日(火)
→ 同友会より参加企業あて研究レポートを提出します。参加企業は、レポート受領後、レポート審査、プレゼン審査を実施し、期日までに審査結果を同友会に提出していただきます。
- (9) 同友会より審査結果を参加大学・学生に通知 → 11月下旬
→ 同友会は、該当チームの審査結果を参加大学に通知します。参加大学は、審査結果を各チームに通知していただきます。
- (10) 表彰式 → 12月15日(火)
→ 表彰式には、最優秀賞および優秀賞を受賞したチームを招待し、参加企業より賞状・賞金を授与していただきます。会場はみなとみらいの「パシフィコ横浜 アネックスホール」を予定しております。

2. 学生チーム編成

- (1) チーム構成人数は、**原則4～6名**とします（編成上やむを得ない場合に限り3名可とします）。
- (2) 学生チームには、リーダーとサブリーダーを1人ずつ置いてください。
- (3) 同じ学生が、複数のチームに所属することはできません。
- (4) 研究テーマ決定後にメンバー変更のあった場合および途中棄権する場合、学生チームは、大学・企業に速やかにご連絡ください。なお、レポート提出後のメンバー増員は、やむを得ない場合を除き、認められません。

3. 研究テーマの決定・レポートの作成

- (1) 参加企業は、提示テーマ報告書を作成し、参加申し込み時に同友会に提出します。
提示テーマ報告書の「審査の進め方について」欄には、「審査方法や審査の考え方（審査基準）」について、現時点で決まっている範囲で記載してください。

- (2) 学生チームは、参加企業の提示するテーマの中から、希望するテーマ（第一希望、第二希望3テーマ）および希望する業種もしくはジャンルを選択し、応募の際に同友会宛提出します。
- (3) 学生チームが取り組むテーマは、学生チームの希望をもとに、参加企業、同友会が選定します。
- (4) 応募学生チーム総数が、参加企業の受入チーム合計数を上回ったときは、同友会より参加企業、参加大学に調整をお願いすることがあります。調整後においても、最終的に全ての学生チームにテーマを割り当てられない場合がありますので、予めご了承ください。
- (5) 参加企業は、テーマに関する説明会を、学生チームに対し速やかに実施してください。説明会では、審査方法・審査基準について、必ず学生チームに直接お伝えください（提示テーマ報告書提出時点で「審査方法・審査基準」が定まっていない場合でも、企業説明会実施日には説明ができるよう定めてください。報告書記載事項に変更があった場合は、説明会で参加学生に直接伝えてください）。
- (6) 学生チームは企業による説明会后、レポート作成に取り掛かってください。レポート作成にあたっては、レポート作成規程を遵守してください。参加企業は中間報告を課すなど、学生チームに対し、レポート作成期間中のフォローを行ってください。
- (7) 学生チームは、作成したレポートを大学の定めた提出期限までに、大学あて提出してください。

4. 審査

- (1) 学生チームから提出されたレポートは、大学・同友会を経由して、参加企業に提出されます。企業提出後の内容変更はできません。
- (2) 参加企業には、学生チームからのレポート受領後、各参加企業が定めた審査方法・審査基準に基づいて、遅滞なく審査を行っていただきます。なお、審査は必ず複数人で行うようお願いします。
- (3) 参加企業は、審査結果を得点化し、入賞（「最優秀賞」、「優秀賞」）チームを選定してください。その場合の「審査方法や審査基準」および「表彰チーム選考」については、実施細則（企業）を参照にしながら、各企業で定めてください。
- (4) 上記の賞以外に、参加企業が独自に表彰を行うこともできます。
- (5) 参加企業は、入賞チーム、選外チームの如何にかかわらず、個別審査表の講評欄への記載等を通じて、学生への審査結果のフィードバックの充実に努めてください。

5. オープンバッジの発行

レポート提出状況やプレゼンテーション審査への参加状況等を勘案して、企業が「修了に値する」とした学生チームの参加学生（希望者のみ）に「オープンバッジ（※）」を発行します。プログラム応募時に、参加学生一人一人に対し、オープンバッジ発行の希望の有無を確認します。

※「オープンバッジ」とは、一般財団法人オープンバッジ・ネットワークが運営管理する「学習デジタル認証」。「最優秀賞」「優秀賞」「修了」の三種類のバッジを発行します。

6. 費用負担

- (1) 参加大学は、プログラムへの参加費として、1校あたり10万円（ただし参加チームが5チーム以内^(注)の場合は8万円）のご負担をお願いします。

(注) 参加チーム数は、取り組みテーマの確定した時点のチーム数とします。したがって、第1希望・第2希望テーマに決まらないため辞退されたチームは、参加チーム数に含めません。

- (2) 参加企業は、プログラムへの参加費として、1社あたり12万円のご負担をお願いいたします。
- (3) 参加費は、参加チームの取り組みテーマ確定後、各参加大学、参加企業宛、請求させていただきます（10月を予定）。
- (4) 入賞チームには、参加企業より賞金（最優秀賞8万円、優秀賞4万円）を、表彰式にて授与していただきます。
- (5) レポート作成に係る研究調査費（印刷費、通信費、交通費等）は、各チームの自己負担を原則としますが、参加企業からの要請に基づき実施するもの等に関しては、企業負担もご検討下さい。

7. 遵守事項

- (1) 著作権の帰属

A. 学生チームのレポート（以下、プレゼン審査の資料を含む）の著作権等知的財産権に関する全ての権利は、参加企業に帰属するものとします。また、学生チームはレポートに関し、著作者人格権を行使しないものとします。

B. 研究成果に知的財産権が発生する可能性がある場合、その取扱いについては、各参加企業が決定するものとします。

(2) 個人情報管理の徹底 (参考) 神奈川経済同友会HP「個人情報保護方針」

- A. 参加企業は、学生の個人情報を厳正に管理し、本プログラム終了後は各企業が責任をもって速やかに廃棄します。
- B. 参加企業は、取得した個人情報を、本プログラム以外の用途で使わないよう徹底します。

(3) その他

- A. 参加大学・企業は、届出事項等の変更があった場合、学生チームからメンバー変更等の報告があった場合、その他運営上共有化しておいた方が良いと判断される事由が生じた場合には、速やかに同友会に報告します。
- B. 学生チームは、実施要綱・実施細則に違反する行為、アイデアの盗用、第三者の知的財産権の侵害、その他法令違反、迷惑行為等を行ってはならない。これらの事実が認められたときは、審査対象外あるいは受賞取り消しとなる場合があります。
- C. 「生成AI」を利用してテーマに取り組むことも可能ですが、以下に留意してください。
 - 生成AIから得られた文章を「そのまま」自らのレポート・プレゼンテーション資料として提出することは禁止します。また、生成AIを活用してレポート・プレゼンテーション資料を作成する場合は、その内容について必ずファクトチェックを行ってください。そのうえで「注釈・資料」等により、「どの部分でどのように活用したか」について明記してください。
 - 企業から提供された情報を生成AIで分析する場合は、「AIが外部にデータを参照させないような設定を行う（オプトアウト）」あるいは「匿名性ある情報に加工する」などにより、情報漏洩とならないよう十分留意してください。企業側も情報を提供する際は、学生がAIを活用することも想定したうえで指導してください。
 - 参加企業がセキュリティ等の理由から「生成AIの利用を禁ずる」場合は、学生はその指示に従ってください。その場合、参加企業は、6月の企業説明会で、参加学生に対してその旨必ず説明してください。
 - 生成AIの利用を認める企業は、生成AIの活用方法が「優れている場合」や「不適切な場合」に評価を加減点することを検討して下さい。加減点を行った場合は、評価内容をフィードバックする際に明記してください。
- D. 参加大学・企業・学生は、本実施要綱のほか、各実施細則（レポート作成規程を含む）に定められた事項を遵守してください。また、記載のない事項につき、同友会より指示のあった場合は、その指示に従ってください。なお、感染症の流行状況によっては、本実施要綱・各実施細則に記載の事項がやむを得ず変更となる場合があります。その場合は、速やかに同友会より連絡をさせていただきます。

2026年2月12日制定

2026年3月25日一部改訂

第 22 回神奈川産学チャレンジプログラム 実施細則（参加学生用）

一般社団法人神奈川経済同友会

1. 応募方法

（1）概要

- ・大学から参加募集方法が示されます。
- ・参加を希望する学生チームは、本実施細則の定めのほか、大学からの指示事項も十分確認のうえ、応募手続きを進めてください。
- ・具体的な応募方法は後述のとおりですが、大学より配布される「第 22 回神奈川産学チャレンジプログラム 応募フォーム（以下「応募フォーム」という）」に必要事項を入力し、神奈川経済同友会宛、**2026 年 5 月 1 日（金） 17 時** までに送信してください（詳細後述）。

（2）学生チーム編成

- ・実施要綱「2. 学生チーム編成」をご確認のうえ、チームを編成してください。

実施要綱 2. 学生チーム編成

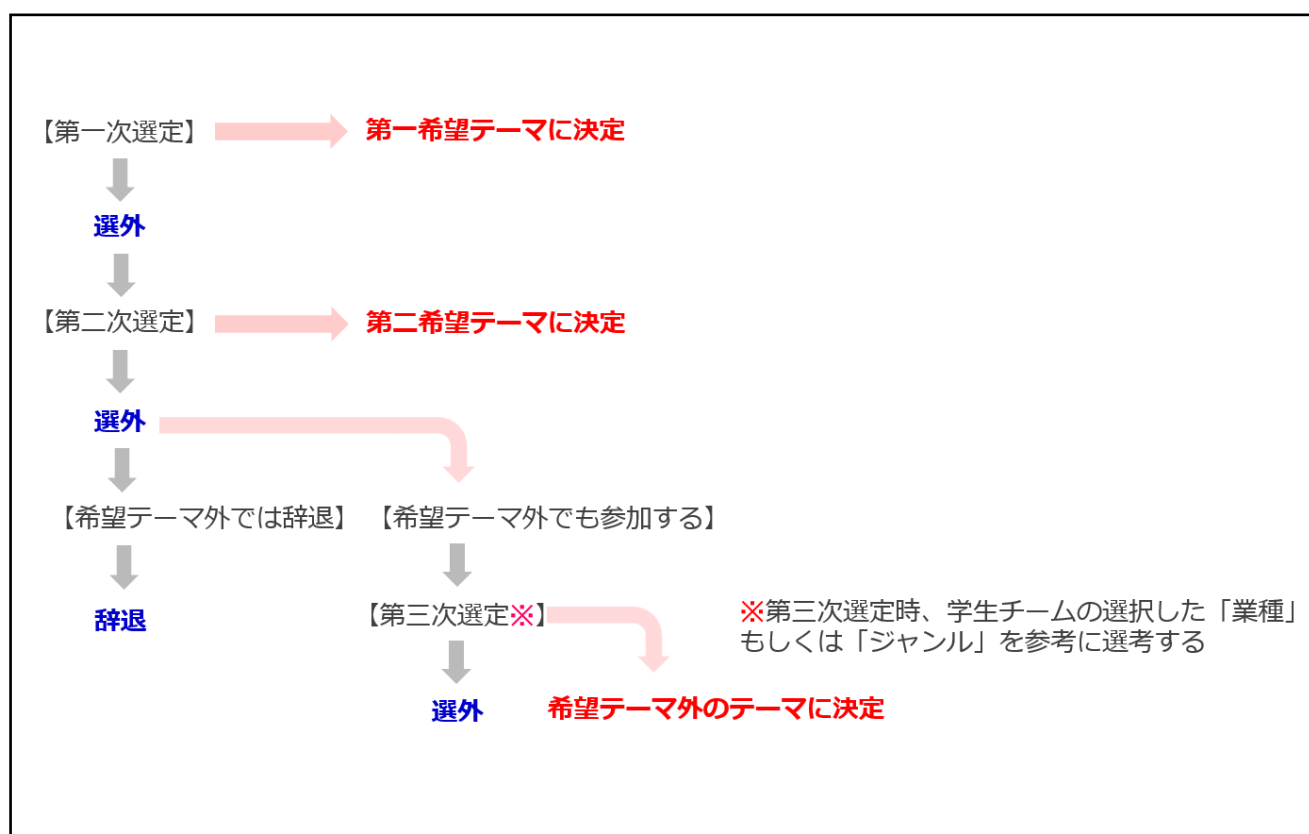
- （1）チーム構成人数は、原則 4～6 名とします（編成上やむを得ない場合に限り 3 名可とします）。
- （2）学生チームには、リーダーとサブリーダーを 1 人ずつ置いてください。
- （3）同じ学生が、複数のチームに所属することはできません。
- （4）研究テーマ決定後にメンバー変更のあった場合および途中棄権する場合、学生チームは、大学・企業に速やかにご連絡ください。なお、レポート提出後のメンバー増員は、やむを得ない場合を除き、認められません。

- ・チーム名はチームリーダーの姓（苗字）とします（例：チームリーダー「鈴木二郎」の場合、「鈴木チーム」）。
- ・参加チームにはグループ番号が付番されます（「G○○○○○」）。グループ番号は同友会より大学に通知しますので、自分のチームの番号を大学より確認してください。

（3）研究テーマの選択とテーマの決定

- ・希望テーマ選択にあたっては、神奈川経済同友会ホームページを参照して決定してください。
（ログイン用の「ID・パスワード」を大学に通知しているので、大学に確認してください）
- ・第一希望テーマ、第二希望テーマ（3 つ以内）を選び、「第一希望を希望する理由（400 字以内）」「プログラム参加にあたっての抱負やプログラムへの期待（200 字以内）」、「第一希望または第二希望テーマ以外になった場合でも参加するか否かの意思確認」、「希望するテーマ外の選考に進んだ場合、事務局によるテーマ選定时、業種とジャンルどちらを参考にした選考を希望するか」等を後述の応募フォームに入力し、同友会宛提出します。

- ・【第一次選定】第一希望テーマにもとづき、学生チームの研究テーマを選定しますが、第一希望チーム応募数が受入可能チーム数より多数となったテーマについては、5月第二週をめどに企業がチーム選定をします。
- ・第一次選定については、「第一希望を希望する理由」「プログラム参加にあたっての抱負やプログラムへの期待」を参考に選定します。
- ・【第二次選定】第一次選定の選外チームについては、同友会が、第二希望テーマをもとに受入可能チーム数に達していないテーマから選定します。
- ・【第三次選定】第二次選定の選外チームは、「第一希望または第二希望テーマ以外になった場合でも参加するか否かの意思確認」により分かります。
 - 「第一希望、第二希望で割り当てられなかった場合は辞退」を選択したチームは、辞退となります。
 - 「第一希望、第二希望以外のテーマでも参加する」を選択したチームは第三次選定へ進みます。
 - 第三次選定に進んだチームは、学生チームが選択した「業種」もしくは「ジャンル」を参考に、同友会が、受入可能チーム数に達していないテーマから選定します（最終的に希望する業種もしくはジャンル以外の研究テーマとなる場合もあります）。
- ・応募チーム数が参加企業の受入れチーム数合計を上回っている場合は、第三次選定によっても研究テーマを割り当てられず、テーマ選定を一任している場合であっても、最終的にご参加いただけない可能性がありますのでご了解ください。
- ・以上を通じた選定結果につきましては、5月末までを目標に、同友会から、参加大学、参加企業あてご連絡させていただきます。大学は学生チームあて、選定結果を連絡します。



(4) 応募フォームへの入力

- ・応募フォームに必要事項を入力し、**2026年5月1日（金）17時** までに送信してください。
- ・応募フォーム入力途中で保存はできないので、回答を用意してから入力を始めてください。
- ・応募フォームの主な入力項目は以下のとおりです（*印は必須項目です）。

(1) メールアドレス

メールアドレス*（原則チームリーダーのメールアドレス）

(2) 大学名等について

大学名*、学部*、学科、チーム構成人数*、指導教員

(3) チームメンバーについて

- ・リーダーおよびサブリーダー

氏名*、フリガナ*、学籍番号（学生番号）*、学年*、電話番号*、メールアドレス*

- ・リーダー、サブリーダー以外のメンバー（**印は1名までは必須項目です）

氏名**、フリガナ**、学籍番号（学生番号）**、メールアドレス**

(4) 希望するテーマについて

- ・第一希望テーマ*、第二希望テーマ（3つ以内）
- ・第一希望テーマを選んだ理由（400字以内）*
- ・プログラム参加にあたっての抱負やプログラムに期待すること（200字以内）*
- ・希望したテーマでの参加ができない場合の意思確認**※

※辞退を選択した場合、(5) 確認事項に移行

※参加を選択した場合、(+α) 質問に移行

(+α) 第一希望、第二希望以外のテーマとなった場合、事務局がテーマ選定をします。その際に次のうちどちらを参考にテーマを決めてほしいでしょうか**※

※業種を選択した場合、希望する業種を2つまで選択* (5) 確認事項に移行

※ジャンルを選択した場合、希望するジャンルを2つまで選択* (5) 確認事項に移行

(5) オープンバッジ発行希望の有無の確認 *

- ・オープンバッジの発行を希望する学生の人数 *
- ・希望する学生の氏名（希望する学生がいる場合）

(6) 確認事項（いずれもチェック形式）*

実施要綱、実施細則、レポート作成規程の内容を確認すること、遵守事項を守ること、オープンバッジ発行希望の意思をチームメンバーそれぞれから確認したこと、メンバーの名前・フリガナ・学籍番号・アドレスに間違いがないこと

- ・業種を選択した場合、下記表を参考に業種を2つまでお選びください。

業種	対象企業
1.運輸	江ノ島電鉄、神奈川中央交通、京浜急行電鉄、丸全昭和運輸
2.金融・保険	SMBC日興証券、神奈川銀行、かながわ信用金庫、川崎信用金庫、明治安田生命保険、横浜銀行、横浜信用金庫
3.建設・設備工事	川本工業、キクシマ、三好商会、ヨコソー
4.商業・不動産	京急ストア、京急百貨店、JR横浜湘南シティクリエイト、相鉄アーバンクリエイツ、相鉄ホールディングス
5.製造業	イチコーエンジニアリング、崎陽軒
6.サービス(他に分類されないもの)	アールケイエンタープライズ、アルテジェネシス、一燈会、NSP、京急アドエンタープライズ、相鉄ビジネスサービス、マイナビ、山田再生系債権回収総合事務所、リコージャパン、YSLソリューション

- ・ジャンルを選択した場合、下記テーマのジャンルより2つまでお選びください。

番号	ジャンル
1	企業戦略・業界戦略(企業経営全般、ブランディング、業界課題解決等)
2	事業戦略(商品戦略、店舗戦略、新規事業等)
3	デジタル戦略(IT、AI等)・コミュニケーション戦略(SNS等)
4	ファンリティ戦略(オフィス、住宅等)
5	海外戦略・国際化
6	地域活性化(まちづくり、観光、交通、インフラ等)
7	地域貢献・CSR・SDGs(環境、福祉等)

- ・フォームの入力項目の詳細は応募フォーム入力画面図をご参照ください。
- ・フォームの入力は、時間的余裕を持って入力してください。特にメールアドレスや電話番号の誤記入がないか、メンバーのお名前の漢字に間違いがないか、必ず確認してください。記載に不備があると、その後の手続きに支障が生じますのでご注意ください。

【重要】入賞した場合、表彰状は応募フォームの入力をもとに作成されます。入力に間違いがあると、表彰状にそのまま反映されてしまいます。毎年、お名前の漢字の間違いが散見されます。チームメンバーのお名前は、必ず本人が間違いのないことを確認してから、提出していただくようお願いいたします。

2. 企業による説明会

- ・参加企業は、参加チームに対して6月末までを目途に説明会を実施いたします。参加企業より学生チームに宛てて案内が来ますので、指示に従ってください(企業によって日程は異なります)。
- ・説明会では、企業概要、テーマ設定の背景、調査・研究のポイントと期待する内容、知的財産権の取扱い、審査方法や審査のポイント、賞金の内容等について説明されます。

3. レポートの作成・提出

- ・レポートは9月末までに作成し提出いただくことになりますが、提出締切日、提出方法は各大学の指示に従ってください。大学へのレポート提出時に、「提出レポートチェック表（学生用）」を併せて提出してください。
- ・レポートは、必ず「第22回神奈川産学チャレンジプログラム レポート作成規程」に従って作成してください。
- ・提出されたレポートは、参加企業に帰属するものとし、返還はいたしません。
- ・各チームが提出したレポートの外部公開については、参加企業の指示に従ってください。

4. 企業審査

- ・参加企業による審査は、10月中旬から11月中旬頃を予定しています。
- ・審査方法、評価方法等は、企業ごと異なります。プレゼンテーション審査を行う場合の日程等を含め、詳細については、神奈川経済同友会HPに掲載されている各企業の「提示テーマ報告書」および参加企業の説明会時等でご確認ください。

5. 審査結果の通知

- ・参加大学は、各チームに対して11月中旬に「個別審査表」により審査結果を通知します。
- ・個別審査表には、「入賞」「修了」「未修了（※）」の記載があります。入賞のうち、最優秀賞・優秀賞の別は、表彰式にて発表する予定です。
- （※）レポートまたはプレゼン資料の提出がない、あるいはプレゼン審査に事前に断りなく出席しないなど、自ら完走しなかったチームは「未修了」となります。また、レポート提出があつた場合でも、企業が提供した情報の取り扱い等の遵守事項を守らなかった場合やAIの活用が著しく不適切であつた場合でも「未修了」となることがあります。

6. 表彰式

- ・入賞チームは、12月15日（火）に開催する表彰式にご招待させていただく予定です。詳細が確定致しましたら、大学を通じてご連絡させていただきます。
- ・なお、感染症の流行状況によって、開催方法が変更となる場合があります。その場合、最優秀賞・優秀賞の発表方法も変更となる可能性があります。

7. オープンバッジ

- ・オープンバッジの発行を希望する学生のうち、「最優秀」「優秀」「修了」となったチームの学生には、オープンバッジが発行されます。
- ・応募時点で学生が登録したアドレスにバッジが発行されますので、アドレスの記載ミスがないよう、徹底してください。
- ・発行は、表彰式終了後の1月を予定しています。アドレスにバッジ発行の連絡が届きましたら、速やかにバッジを受領してください。

8. その他

- ・企業からメール、電話等で連絡が入った場合には、速やかなレスポンスに努めてください。逆に、入るべき連絡がなかなか入らない場合には、企業の担当者に早めにご確認ください。
- ・企業を訪問する際に体調が優れないときには連絡のうえ訪問を差し控える等、徹底してください。
- ・予期せぬ事情の発生によって、実施要綱・各細則に記載の事項がやむを得ず変更となる場合があります。参加チームに係る変更があった場合には、大学、もしくは企業を通じてご連絡させていただきます。

以 上

第 22 回神奈川産学チャレンジプログラム レポート作成規程

一般社団法人神奈川経済同友会

1. レポートの構成

表紙、目次、要旨、本文、注釈・資料の順に構成してください。

(1) 表紙 (1 ページ)

表紙には、グループ番号、テーマ提示企業名、テーマ名、大学名、チーム名、リーダー、サブリーダー、それ以外のメンバー全員の氏名・学部・学科・学年それぞれ記載してください。

(2) 目次 (2 ページ)

ページ 1 枚で作成してください。

(3) 要旨 (3 ページ)

本文の要旨をページ 1 枚にまとめてください。

(4) 本文 (4 ページ以降)

本文枚数は、20 ページ以内にまとめてください。なお、この枚数には表紙、目次、要旨、注釈・資料は含みません。

(5) 注釈・資料

注釈・資料は 10 ページ以内にしてください。また、参考文献や引用については、必ず出所・出典を明記してください。

2. レポートの作成に関する注意事項

・レポートの作成に際し引用を行う場合は、以下の文化庁ルールに従ってください。

- ア 既に公表されている著作物であること、
- イ 「公正な慣行」に合致すること
- ウ 報道、批評、研究などのための「正当な範囲内」であること
- エ 引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であること
- オ カギ括弧などにより「引用部分」が明確になっていること
- カ 引用を行う「必然性」があること
- キ「出所の明示」が必要（コピー以外はその慣行があるとき）

・実施要綱・実施細則に違反する事実やアイデアの盗用、第三者の著作権やその他の知的財産権の侵害、その他不正があった場合は、審査対象外あるいは受賞取り消しとなる場合があります。

- ・「要旨」は、レポートの内容（目的、方法、結論など）を簡潔にまとめてください（「序論」と混同しているのか、結論が書かれていない等、「要旨」と異なる例が散見されます）。
- ・「生成A I」を利用してテーマに取り組むことは可能ですが、以下に留意してください。
 - ア. 生成A I から得られた文章を「そのまま」自らのレポート・プレゼンテーション資料として提出することは禁止します。また、生成A I を活用してレポート・プレゼンテーション資料を作成する場合は、その内容について必ずファクトチェックを行ってください。そのうえで「注釈・資料」等により、「どの部分でどのように活用したか」について明記してください。
 - イ. 企業から提供された情報を生成A I で分析する場合は、「A I が外部にデータを参照させないような設定を行う（オプトアウト）」あるいは「匿名性ある情報に加工する」などにより、情報漏洩とならないよう十分留意してください。
 - ウ. 参加企業がセキュリティ等の理由から「生成A I の利用を禁ずる」場合は、その指示に従ってください。6月の企業説明会で、参加学生に対してその旨説明があります。
 - エ. 生成A I の利用を認める企業は、生成A I の活用方法が「優れている場合」や「不適切な場合」に評価を加減点することがあります。

3. レポートの体裁

- ・レポートは、原則「Microsoft Word」で作成（※）し、「PDFファイル」に変換して提出してください。 ※ Word以外の書式で作成したい場合は、事前に企業の実情を確認してください。
- ・表紙は、本規程添付のフォーマットをご使用ください（フォーマットの体裁は変更不可）。グループ番号は、神奈川経済同友会より大学宛通知された番号です。テーマ番号およびテーマ名は間違いのないように記載してください。
- ・ページ番号は表紙を1ページ目とし、ページ下部中央にふってください。
- ・レポートは、表紙、目次、要旨、本文、注釈・資料の順番とし、1つのPDFファイルにまとめてください。
- ・PDFのファイル名は、「テーマ番号+グループ番号+大学名+チーム名」としてください。
→ （例）T08G01021 青学山本チーム
- ・テーマ番号、グループ番号を「半角」、大学名、チーム名を「全角」としてください。
- ・レポートのファイルサイズは、掲載する写真や画像のファイルサイズを圧縮する等により、できるだけ小さくするようにしてください。

4. レポートの提出

- ・レポートの提出方法は大学の指示に従ってください。
- ・提出締切日は大学が設定しますので、それまでにご提出ください。
- ・一度提出したレポートの内容変更はできません。
- ・レポートを大学に提出する前に、「提出レポートチェック表（学生用）」でセルフチェックして、不備のないことを確認してください（チェック表はレポートと一緒に大学に提出してください）。
- ・当規程に反するレポートは、失格となることがあります。

以 上

第22回神奈川産学チャレンジプログラム 研究レポート

グループ番号	
--------	--

企業名		テーマ番号	
テーマ名			

大学名		チーム名	チーム
-----	--	------	-----

※チーム名はリーダーの苗字です

<メンバー>

【リーダー】

氏名		学籍番号 (学生番号)			
学部名		学科名		学年	

【サブリーダー】

氏名		学籍番号 (学生番号)			
学部名		学科名		学年	

【メンバー】

氏名		学籍番号 (学生番号)			
学部名		学科名		学年	

氏名		学籍番号 (学生番号)			
学部名		学科名		学年	

氏名		学籍番号 (学生番号)			
学部名		学科名		学年	

氏名		学籍番号 (学生番号)			
学部名		学科名		学年	

第 22 回神奈川産学チャレンジプログラム 提出レポートチェック表(学生用)

チェック日 _____

グループ番号 _____

チーム名 _____ チーム _____

項 目	チェック (✓)
レポートの表紙は所定のフォーマットを使用し、記載事項がもれなく記入されているか	
目次・要旨は各 1 ページ、本文は 20 ページ以内、注釈・資料は 10 ページ以内となっているか	
表紙を 1 ページ目とし、ページ下部中央にページ番号をふっているか	
レポートは、表紙、目次、要旨、本文、注釈・資料の順番とし、ひとつの PDF ファイルにまとめているか	
PDF ファイル名は「テーマ番号+グループ番号+大学名+チーム名」となっているか(※)	
チームメンバーが変更となっている場合、大学・企業に報告を行っているか (→報告していない場合は、速やかに大学・企業に報告)	
写真・画像を圧縮すること等により、レポートのファイルサイズをできるだけ小さくしているか	

→すべてにチェックが入ったことを確認して大学に提出

(※)(例)T08G01001 青学山本チーム

テーマ番号、グループ番号を「半角」、大学名、チーム名を「全角」としてください。

大学名は右の表の略称で
ご記入ください。

大学名	略称	大学名	略称
青山学院大学	青学	東海大学	東海
神奈川大学	神大	東京都市大学	都市
鎌倉女子大学	鎌女	東洋英和女学院大学	東洋
関東学院大学	関東	フェリス女学院大学	フェリス
國學院大學	國學	明治大学	明治
相模女子大学	相模	横浜国立大学	横国
産業能率大学	産能	横浜商科大学	横商
松蔭大学	松蔭	横浜市立大学	横市
専修大学	専修	横浜美術大学	横美
桐蔭横浜大学	桐蔭		

第 22 回神奈川産学チャレンジプログラム 参加企業提示テーマ一覧 (1)

テーマ 番号	企業名	テーマ
T01	株式会社アールケイエンタープライズ	ブランドリユースの常識を塗り替えろ！ 「次世代ロデオドライブ」出店戦略プロジェクト
T02	株式会社アルテジェネシス	次世代の美容室が生み出せるイノベーションとは
T03	イチコーエンジニアリング株式会社	多品種少量生産の製造業における、効果的な技術継承と、必要技術の可視化
T04	社会福祉法人一燈会	日本の超高齢社会を救え！ 健康増進と介護予防の新サービス提案
T05	S M B C日興証券株式会社	インフレに勝つ！20代が証券投資に参加したくなるアイデア
T06	株式会社NSP	AI専任チームとともに考える！ IT企業内での生成AI利用を「自然に定着させる」ための取り組みの検討
T07	江ノ島電鉄株式会社	「未来を創る×江ノ電」 “こどもたち” に向けたワクワクするプロジェクトで永遠に愛される沿線を目指して
T08	株式会社神奈川銀行	神奈川銀行の“地域密着×SNS” 新戦略をつくろう！
T09	かながわ信用金庫	かなしんマーケットリサーチ☆グランプリ
T10	神奈川中央交通株式会社	神奈中バスで地域をつなぐ！～ともに創る、未来へ続くまちの交通～
T11	川崎信用金庫	若い世代が取引したくなる川崎信用金庫にするためには？
T12	川本工業株式会社	空調衛生設備を担うBtoB建設企業を対象に、技術価値を社会に可視化するPR戦略
T13	株式会社キクシマ	建築が、人と街の未来を変える！ ～神奈川をもっと輝かせる建築×サービスの提案～
T14	株式会社崎陽軒	2028年 創業120周年・シウマイ誕生100周年に向けた新たな企画戦略について
T15	株式会社京急アドエンタープライズ	京急線の既存交通広告をもっと見てもらうための、新しい企画や販売戦略を考える
T16	株式会社京急ストア	新規オープン予定！ウィングキッチン平和島（仮称）のテナント選定

第 22 回神奈川産学チャレンジプログラム 参加企業提示テーマ一覧 (2)

テーマ 番号	企業名	テーマ
T17	株式会社京急百貨店	百貨店業、SC事業、PM事業の3つを展開する当社が、沿線価値創造のために提案すべき新しい価値とは
T18	京浜急行電鉄株式会社	「羽田へ行くな／羽田からは京急」を定番化するためには？
T19	株式会社JR横浜湘南シティクリエイト	地域の魅力を発掘する商品開発と顧客層の拡大に向けた販売戦略
T20	株式会社相鉄アーバンクリエイツ	横浜駅西口が「新産業の創造・集積拠点」を目指すにあたり講ずるべき方策の提案
T21	相鉄ビジネスサービス株式会社	都内在住の20～30代の若い世代が「相鉄線沿線での暮らし」を選択するための広報戦略
T22	相鉄ホールディングス株式会社	駅直結商業施設「ジョイナス」顧客体験価値向上 ：体験型ショッピングセンターの構築～過ごす場所への変革
T23	株式会社マイナビ	大学生の価値観変化を踏まえ、理想的企業像を定義し、共感と成長を伝える新卒採用広告を設計せよ
T24	丸全昭和運輸株式会社	100年企業の顔を創る！次世代オフィスデザインプラン
T25	株式会社三好商会	新規事業の立案 ～三好商会創立80周年にあたって～
T26	明治安田生命保険相互会社	明治安田“法人総合営業職”実は最強説。 ～推し活される、憧れの職業に～
T27	株式会社山田再生系債権回収総合事務所	山田グループが取り組むSDGs施策の提案
T28	株式会社ヨコソー	ヨコソーの企業ブランディング ～「建物を建てない建設業」としての強みが伝わる広報戦略～
T29	株式会社横浜銀行	神奈川県的大学生みんなが使いたい銀行へ 想起から口座開設、利用までを描く横浜銀行のマーケティング戦略
T30	横浜信用金庫	地域の皆様の生活圏内に店舗がある強みを活かした「《よこしん》らしい」顧客体験の提案
T31	リコージャパン株式会社 神奈川支社	人が集まる会社は、どう作る？ ～リコージャパンの未来ブランディング～
T32	株式会社YSLソリューション	新たに加わった社員に企業カルチャーが浸透していくようなオンボーディング施策を考えてください

第 22 回神奈川産学チャレンジプログラム 応募フォーム

応募フォームの入力を始める前に、「第22回神奈川産学チャレンジプログラム実施要綱・実施細則集・レポート作成規程」を必ず確認してから入力してください。

URL <https://x.gd/CyNMk>

QRコード

